

2. ふるさと運動事業

(×) 防犯防災部

ア 活動の総括

感染症問題が一段落し、人と人が接しあう活動が基本となる防犯、防災の取組みが一昨年から徐々に解禁できる環となりました。

大規模地震・風水害への対応は、平時においての心構えや物理的な準備が大切であり、用意を重ね何も起きないことに安堵する姿勢を基本に、「SDGs（持続可能な諸行動の実行）を目指した取り組み」につき、具体的に以下の5つの項目を目標に据えての活動を実施しました。

- ① 備蓄品や防災知識向上（自助の強化）
- ② 災害時の安否確認の実現（共助の確立）
- ③ 非常時の電話以外の代替連絡手段の確保（共助と公助の連携）
- ④ 安全・安心な避難行動の実現（自助と共助の融合）
- ⑤ 適切な避難所運営マニュアルの策定（共助の確立）

その結果、今年度におきましても、昨年度同様に多くの地域団体に防災活動が実施され、概ね全体の8割を超える(防災活動団体単位で31団体中25：後述「別紙1」の実施日記載)団体において、地震等の災害を想定した住民参加型の防災訓練(消防法に基づき集合住宅で実施される防火消防訓練のみ実施の団体は対象から外しています)が行われました。

イ 個別の活動報告

上記「ア」の①及び④に掲げる自助の強化では、季刊・毎月の住民向けニュースとして「防災ネットしようなん」、「防犯情報しようなん」及び「ひまわり通信」をそれぞれホームページに掲載し、更に広報しようなん印刷紙面にて情報を発信しました。更に昨年6月29日に実施した「災害発生時に取るべき適切な行動を学ぶ」講習会を通じて、住民の防災意識の向上を目指しました。

②共助の活動としてシェイクアウト訓練実施の住民向け呼び掛けや安否確認訓練が団体で実施されました。また同じ日時での地域内一斉での訓練までには至りませんでした。各学校の指定避難所を会場にした訓練が、大津ヶ丘第一小学校及び沼南高等学校以外の会場で住民避難訓練が開催されました。地域内の各団体で実施の防災訓練等の結果は後述の一覧表「別紙1」を参照ください。

③の非常時の連絡手段は、上記安否確認に付随して重要な項目であり、電話以外の連絡手段の確保が欠かせないことを、改めて各団体や住民に理解を求める必要があります。今期は、秋季の各団体で実施された安否確認訓練や住民避難訓練実施に際し、柏市風早北部地区災害対策本部(沼南近隣センターに設置)との間での無線機交信訓練を多くの団体との間で実施しました。

現在の当地域内での無線機(3R5W出力のトランシーバー)の所有台数は、計70基におよび、防災活動単位の31団体(当会未加入の大津ヶ丘第2住宅管理組合を除きます)中29団体が無線機を利用し、万が一の緊急連絡用の命綱のとして活用しています。

⑤の活動は、万が一各指定避難所の担当職員(市職員や施設管理者)が災害発生時に現

場に駆け付けられないことを想定し、住民自ら各避難所の避難住民等の受け入れを可能とする「避難所開設手順書(仮称)」の編纂に取り組みました。同書面の完成には至っていませんが、次年度にはその完成を目指し、避難訓練での活用を目指します。

なお個別の活動結果概要は以下に列記しましたとおりです。

(1) 具体的な活動内容

活動名称	実施日	主な実施点の概要	参加数
第1回 防災意見交換会	令和6年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度事業活動計画の説明 当地域防災を取り巻く現状と課題 柏市災害発生時防災体制（防災安全課・及び沼南近隣センター説明） 	32名
第2回 防災意見交換会	令和6年6月29日 午前	<ul style="list-style-type: none"> 防災講習会（講師：市防災研究会） 「災害発生時に取るべき適切な行動を学びましょう」 	43名
第1回風北ジョイナスの集い	令和6年6月29日 午後	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生講習会の実施（柏市女性消防団のご協力） 	11名
第3回 防災意見交換会	令和6年7月27日	<ul style="list-style-type: none"> 秋季防災訓練実施に向けた協議（避難所ごとに分科会形式で実施） 	36名
第4回 防災意見交換会	令和6年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> 柏市管内水位観測システム(通称りすくマ)の住民閲覧共有に関する説明会（講師：市上下水道局職員） 秋季防災訓練実施に向けた協議継続 	32名
第5回 防災意見交換会 (防犯講習会)	令和6年11月23日	<ul style="list-style-type: none"> 柏市の犯罪発生情勢と住民による対策（講師：犯罪取締り経験と知見のある一般市民） 消費トラブルの現状（講師：市消費生活センター職員） 	25名
第6回 防災意見交換会	令和7年1月25日	<ul style="list-style-type: none"> 今期防災訓練の総括 柏市長への防災関係宛要望書の内容説明 避難所開設手順書の作成協議 	29名
第7回 防災意見交換会	令和7年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> 今年度事業活動の報告 次年度事業計画案の説明 次年度(後任)担当者との連絡 ほか 	30名
第2回風北ジョイナスの集い	令和7年3月15日	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度活動計画の検討 	15名

(2) 住民向け情報発信件数（当会 HP 掲載＋希望団体に紙面で提供）

配信情報	発信件数（号外版を含む）
防災ネットワーク通信	計38号をHPに掲載
風早北部防犯情報しょうなん※	計59号をHPに掲載

※2024 年 11 月以降は毎週 1 号以上の頻度で発行しています。

ウ その他

◇ 柏市長宛の要望書の提出及び会見・協議の実施

12 月 24 日に当会会長から柏市長宛てに「柏市の防災活動に関わる風早北部地域住民からの要望書」を 4 項目で提出（「別紙 2」を参照）しました。なお、本要望書に対する市の回答は新年度（本年 4 月以降）に実施し、その結果概要は、別途「ひまわり通信（夏季号）」にてご案内します。

◇ 地域住民向け防犯防災知識向上の啓発活動を実施

(1) 防災講習会（6 月 29 日実施：会場は沼南近隣センター大ホール）

…「別紙 3」参照

(2) 柏市管内水位観測システム（通称「りすくマ」）の市民閲覧に関する説明会

（9 月 28 日実施：会場は沼南近隣センター 2 階学習室）…「別紙 4」参照

(3) 防犯講習会（11 月 23 日実施：会場は沼南近隣センター大ホール）

…「別紙 5」参照

(4) 防災クイズ「風北ジョイナスからの挑戦状」を実施

昨年 12 月上旬のひまわりプラザまつりの機会に、防災クイズ 10 問をひまわりプラザ 1 階ロビー及びラウンジを利用して開催し、同まつり期間+2 週間の延長の間に計 60 名のクイズ参加をいただきました。成績が優秀（満点）者の中から抽選で 10 名の方々に 2 kg 入りのお米を進呈しました。

【別紙1】風早北部地域内各団体防災活動・訓練実施状況一覧（空欄は今期の活動見合わせ）

各項目 団体名	実施日 消防訓練 のみは 未記載	防災訓練等の内容							
		避難所へ の移動等 訓練	安否確認		シェイクアウト 実施呼掛け	消防 訓練 実施	防災教育や 講習会参加	防災倉 庫備品 点検等	
			実 施	地区本部と の無線通信					
箕輪区	12/8	○		○			○		
五條谷区	11/17	○					○		
大井区	新舟戸	11/24	○		○				
	井堀内	11/24	○	○	○	○		○	
	大木戸	11/17	○					○	
	追花	10/19	○	○	○				○
	柏東PH	12/15	○	○	○		○	○	○
	沼南エリカ	10/20	○	○		○	○	○	○
	中郷	11/24	○	○	○			○	
	中の橋	10/27	○			○		○	
	舟戸	11/24	○		○	○		○	○
	緑台	11/17	○			○		○	
大島田区									
塚崎区	10/20	○	○	○	○	○	○	○	
塚崎二丁目	10/6	○	○	○	○	○	○	○	
塚崎三丁目	10/20	○						○	
大津ヶ丘一丁目	11/23	○	○		○		○	○	
大津ヶ丘二丁目									
大津ヶ丘三丁目	10/13	○	○	組織内通信	○		○		
大津ヶ丘四丁目	11/17	○	○	○			○		
サンパワー区	10/27	○	○		○		○		
大津ヶ丘第一住宅	11/24	○	○			○	○	○	
大津ヶ丘第三住宅	11/10		○	○		○		○	
大津ヶ丘第四住宅						○		○	
大津ヶ丘第五住宅						○		○	
グランシティ団地	11/17		○			○		○	
ブロムナード団地						○		○	
大津ヶ丘商店街									
塚崎パークヴィラ	9/28		○	○				○	
リバティーヒル柏	10/20	○	○	○	○	○	○	○	
手賀の杜	12/8	○	○	○	○	○	○	○	

（注）大津ヶ丘第二住宅は当会未加盟にて記載外団体。

10/27の大津ヶ丘第一小学校での避難訓練は衆議院議員選挙投票日と重なったため投票所使用で避難所運営訓練は中止となった。12/8の沼南高等学校での訓練も翌日の期末考査のため同校での実施を見送った。

【別紙2】太田柏市長へ提出の防災関係要望書（12月24日付）

1. 柏市内広範囲でのより多くの市民参加型防災訓練の実現を求めます

これまで市防災行政が行ってきた総合防災訓練では、大規模災害発生時の実践的対応は難しいと考えます。まずは市内の全域を実施対象とした訓練の実現を、各地域住民の協力で実現することを要求します。

その中では、中学校・高校生の避難所運営への積極的な参加が期待できるよう、学校教育で地域ボランティア推進を訴えていただきたいと思います。

2. 市民向け屋内避難の選択先の一つとしてマイカー&マイテント避難を可能とする場所の調査及び確保を求めます

私ども風早北部地域住民にとって大きな課題である「在宅避難以外の屋内避難場所確保」につき、その解消策の一つとして私どもが強く要望するのが「マイカー&マイテント」避難です。当地域内には既に、二松学舎大学柏校において学校側との合意が図られ、非常時の住民によるマイカー避難が可能となっています。これ以外の公園や緑地についても、車両を利用した住民避難となり得るスペースが幾つかあるものと思われます。

こうしたマイカー避難を可能とする市内の公園や緑地につき、まずは対象地の調査を担当部局の協力の下で実施され、本件に関する私ども住民からの意見（避難場所候補となり得る土地に関するヒアリング）にも積極的に耳を傾けていただきたく、要望します。

3. 災害時に大怪我をしない・させないための支援を求めます

旧沼南町地域の総合病院(災害時救急対応の医療施設)がないことから、その設置が求められ、市長をはじめ市職員のご尽力で沼南体育館をその候補地にすることまでは決まりました。一方でその関係先である、医療機関、医療機器や製薬会社等の組織との検討協議はまだまだ不透明であり、私どもはその実現が相当に困難で、満足のゆく施設の実現は不可能と判断しています。むしろ、大規模災害時に大怪我をしない、させない対策に舵をきったやり方が現実的であると考えます。

大怪我をしない・させない市民向け講習会の実施、家具や家財の転倒防止措置に関わる補助金制度の創設(現状の社会福祉主管でなく防災主管で)を求めます。

4. その他

✓ 自主避難所開設案内を行政無線で（市民に広く知ってもらうために）

自主避難所の市民認知度は決して高くない中で、現状の行政無線活用のルールはかなり狭い（限定的すぎる）と感じます。市民に広く自主避難所を認識していただくことを優先とすべきではないでしょうか。

✓ 避難所の出入り管理はマイナンバー読み取り機で（早期導入を）

避難所への市民等の出入りを効率的に行うことで、これ以外に人的リソースを投入可能と考えます。個人情報管理の厳格化を担保に、人による従前の受付作業との併用の中、是非本件の導入をご検討いただきたいと思います。

- ✓ 市内の市民防災団体の現状の活動状況の把握を（市行政の責務です）
柏市の住民団体の防災活動やそのレベルを平時から把握すべきであり、是非市の防災行政が積極的に調査をされるよう強く求めます。
- ✓ 市防災行政のチェック機能や機関の確立を（市議会では限界があります。また、現状の柏市防災会議にはその役割を担っているとはいえません
現状の柏市防災会議に一般市民を含む防災専門家や熱心な方々を加え、年2～4回の開催（1回の開催時間は少なくとも3時間程度）を求めます。
- ✓ 地域防災計画の構成見直しを（公助、共助、自助の役割記載を簡易で分かりやすく。火山噴火対策の充実も求めます）
- ✓ 市職員の働き方改革を（上記の各項目をより前進させるためには、市防災行政に従事する職員を本庁から各地区（主要な近隣センター）分散配置は欠かせないものと考えます）
例えば、上記の市内の市民防災団体の活動状況の結果を踏まえ、テコ入れが必要と
思料される市内3から4箇所の近隣センターに防災職員各2～3名程度を配置、平
時は同センター職員として勤務する傍ら、同センター及びその周辺の3～4か所の
近隣センターでの防災行政も担当するよう、職員の勤務配置変更（身分は市民生活
部併任）を要望します。

以 上

【別紙3】令和6年度防災講習会（実施結果概要）

「災害発生時に取るべき適切な行動を学びましょう」

第1部「住民で行って欲しい3つ+αの訓練」

これを柏市内のより多くの市民が実施することで、現行の行政主導防災訓練はほぼ必要なくなる＝防災行政のスリム化や他の業務（より必要な部署）への市職員配置転換にもつながることでは非常に有効な活動であることを強調。

第2部「防災講習会」での講師発言の主なポイント

- ✓ 冒頭、今年1月1日発生の能登半島地震の被害状況につき、マスコミ報道や氏が自ら現地ボランティアとして訪問した際撮影した内容を中心に紹介。被災地と県の心臓部である金沢市、千葉県全体の中での房総半島と柏市の地理的な距離を比較、被災地避難所の様子(非常に劣悪な環境：体験住民が語る悲惨な避難生活の現状手記を含む)、幹線交通路遮断、ライフライン供給停止、情報不足の悪条件が災害復旧を遅らせたこと、ボランティアが現地になかなか浸透できない環境であったことが課題で示された。
- ✓ 講習会本題では、地震が起きた際の初動から避難移動までの行動（3分間は自身の安全確保、3時間以内に家族の安否を確認し安全な居場所を確保、外部からの救援が本格化する3日間は家族や地域で支え合う）が示された。
- ✓ 避難時の持出し品は事前に考え用意しておくこと（それぞれの世帯ごとに内容は異なるが、基本的に必要な物資は日頃から用意しておく）。
- ✓ 多様化する避難形態の中では、「在宅避難」が損壊さえなければ一番安心できる場所ながら、ライフライン停止環境下で、必要な生活物資確保（避難所まで取りに行くことなど）をどうするかを避難所運営の地域内で想定しておく必要がある。
- ✓ 災害情報入手手段は各自、各世帯で複数確保しておくこと。情報不足が人命を含む大事故や二次災害に繋がる。防災アプリ、ネットでの気象情報、市のハザードマップ。
- ✓ 自分が日頃生活する場所が過去にどういった地形、地勢であったかを知っておくことも、水害や地震で土地が危うくなる可能性の把握に活用。
- ✓ マイタイムラインを事前に策定しておくことが重要。
- ✓ 災害発生時にとるべき共助関係では、国が数年前から各地方自治体に実施を求めている、高齢者や身体障害者（いわゆる要支援者）への個別避難計画に触れ、市が行っている防災福祉Kネットを取り上げる。その中でも、Kネット登録者に配布される防災キットの有効性を強調。

その他として、地域女性防災活動サークル「風北ジョイナス」からの告知、メンバー募集中の案内が示された。

【別紙4】りすくマ説明会での出席者との質疑応答記録

《質問》センサーが設置可能なのは雨水管でよいか？

《回答》その通りです。風早北部地域はこの雨水管が他の地域より少ないこと、比較的高台が多く内水氾濫の危険性が他の地域に比べ高くないことで、センサー設置が全域で未了となっています。雨水管の市内での設置割合は全体の2割程度で、より洪水氾濫のリスクが高い他の地域に優先してセンサー設置がされている。

《質問》最近当地域内でのマンホール工事が目立つが、これは何故か。

《回答》概ね10年から20年で経年劣化することによる改修工事と思われる。

《質問》大津川沿いで河川氾濫の心配があるが、市として県や国と連携して氾濫防止に取り組めないのか。

《回答》国は専ら河川氾濫対応、県は污水管への対応が主である。雨水管設置には1メートルあたりでもおよそ100万円の費用がかかるといわれており、改修が容易でないことをご理解いただきたい。その意味で、公助の限界を踏まえた共助や自助でのご対応（例として、災害非常時に自家用車の高台への移動避難、自宅では2階以上の高所避難行動など）をお願いしたい。

なお、今回のシステム閲覧を市民に開放した（同システム導入も全国自治体では初の試み）ことについては、地価への影響もあり苦渋の判断であったが、全国的にこれだけ大規模風水被害が毎年どこかで発生している状況下では、こうした積極的な情報開示は避けられないものと判断した結果であることも是非ご理解いただき、各地域や各世帯での適切な対応をお願いしたい。

【別紙5】防犯講習会の実施結果概要

第一部：風早北部地域を含む柏市内の犯罪発生情勢と対応策

- ✓ 2002年の犯罪発生件数をピークにわが国では犯罪は減少傾向。平成の大合併の機会に警察防犯と市民防犯の両輪で好結果を記録。
- ✓ 2022年から発生件数は上昇中で今年（2024年）の統計に注目したい。
- ✓ 最近発生凶悪強盗事件につき、特徴と今後の展開や市民がとるべき対策を教示。
- ✓ 空き巣犯、自転車盗難事件、車両盗難事件の最近の特徴と対策を教示。
- ✓ 地域団体で執っていただきたい3つの行動（住民目線の強化と通報体制の整備、街をきれいにする環境運動の推進、防犯灯新規設置の検討）を推奨。

第二部：柏市沼南地域での消費者トラブルの現状報告

- ✓ 消費生活センター組織、その使命や業務内容、最近の主な相談内容の紹介
- ✓ だまされやすさの自己点検（騙されやすさの心理チェックを体験）
- ✓ 動画（小さな気づきが第一歩、気づきをつなぐ）視聴
- ✓ 具体的な事例紹介：点検商法、くらしのレスキューサービス、訪問販売購入、健康食品の定期購入、ネット上のトラブル（偽の警告）、国際ロマンス詐欺
- ✓ 賢い消費者になるための合言葉「お断りします」「いりません」（会場で復唱）